



特別講演





宇津木 妙子

現職

NPO法人ソフトボール・ドリーム 理事長
 ビックカメラ女子ソフトボール高崎 シニアアドバイザー
 東京国際大学女子ソフトボール部総監督

略歴

1972 [S47] ユニチカ垂井(岐阜県)入社
 〔国内大会実績〕 〔国際大会実績〕
 全日本総合選手権：優勝2回 世界選手権大会(選手)2位
 全日本一般選手権：優勝3回 第1回世界ジュニア大会(コーチ)優勝
 全日本実業団選手権：優勝4回 ISFワールドカップ(コーチ)
 日本リーグ1部：優勝2回 日中米国際大会(コーチ、主将)

1985 [S60] ユニチカ垂井(岐阜県)退社
 1986 [S61] 日立高崎女子ソフトボール部 監督就任
 1987 [S62] 日本リーグ2部に昇格
 1988 [S63] 全日本実業団選手権優勝、日本リーグ2部優勝→1部昇格
 1990 [H2] 日本リーグ1部優勝
 第7回世界選手権大会(監督)5位、アジア競技大会(監督)2位
 アトランタオリンピック(コーチ)4位

1996 [H8]
 1997 [H9] 日本リーグ1部、全日本総合選手権、国民体育大会 優勝 【三冠達成】
 全日本監督就任(12月)
 1998 [H10] 第9回世界選手権大会 3位
 アジア競技大会 準優勝

2000 [H12] シドニーオリンピック 銀メダル
 2001 [H13] 第10回世界選手権大会アジア地区予選 優勝
 2002 [H14] 第10回世界選手権大会 準優勝
 アジア競技大会 優勝

2003 [H15] ※チーム名変更：日立&ルネサス高崎女子ソフトボール部 総監督就任
 日本リーグ1部、全日本総合選手権、国民体育大会 優勝 【三冠達成】
 2004 [H16] アテネオリンピック 銅メダル後に全日本監督退任
 2005 [H17] 国際ソフトボール連盟(ISF) 殿堂入り
 2007 [H19] ※チーム名変更：ルネサス高崎女子ソフトボール部
 2008 [H20] 男女共同参画社会づくり功労者内閣総理大臣表彰受賞(6月)
 北京オリンピック(金メダル) テレビ解説者
 日本リーグ1部、全日本総合選手権、国民体育大会優勝【三冠達成】

2009 [H21] 2009/2 総監督を退任し、シニアアドバイザー就任
 ※チーム名変更：ルネサステクノロジ高崎事業所女子ソフトボール部
 2010 [H22] 東京国際大学女子ソフトボール部総監督就任
 2011 [H23] NPO法人ソフトボール・ドリーム設立(設立日：2011.6月)
 2014 [H26] 世界野球ソフトボール連盟理事(2014.5月)
 2014 [H26] 文部科学大臣杯第49回全日本大学選手権大会 優勝(2014.9月)
 2015 [H27] ビックカメラ女子ソフトボール高崎 シニアアドバイザー就任
 ※チーム移管：ルネサスエレクトロニクス高崎事業所女子ソフトボール部
 →ビックカメラ女子ソフトボール高崎

【チームの成績】

日本女子ソフトボールリーグ1部	優勝 7回、準優勝5回
全日本一般女子選手権大会	優勝 2回、準優勝2回
全日本総合女子ソフトボール選手権大会	優勝 10回、準優勝3回
国民体育大会	優勝 6回
文部科学大臣杯第49回全日本大学選手権大会	優勝 1回

要職

2006 [H18] 4～ (財)日本ソフトボール協会 常務理事、普及委員長、国際委員
 2008 [H20] 4～ Team KAGAWA アドバイザー コーチ
 2009 [H21] 2～ 文部科学省 中央教育審議会 委員
 2009 [H20] 4～ 日本スポーツ少年団 副本部長
 2009 [H21] 4～ *日本スポーツマスターズ委員会 委員(シンボルスポートメンバー)
 2009 [H21] 10～ 2020東京オリンピック・パラリンピック招致委員会 参与
 2012 [H24] 10～ *アジアソフトボール連盟第一副会長
 2014 [H26] 4～ * (公財)日本ソフトボール協会副会長、国際委員長
 2014 [H26] 5～ *世界野球ソフトボール連盟理事
 2014 [H26] 9～ *群馬県高崎市「文化芸術センター及び新体育館建設・運営アドバイザー」
 【注】要職について、現在、継続中のものは*印記載

著書

「努力は裏切らない」/幻冬舎文庫 「チームワーク」/学陽書房
 「金メダルへの挑戦」/学陽書房 「宇津木魂」/文藝春秋 「ソフトボール眼」/講談社

座長：内野 直樹 (JCHO理事)

努力は裏切らない－組織の力を強くするには－

NPO法人ソフトボール・ドリーム 理事長

ビックカメラ女子ソフトボール高崎 シニアアドバイザー

東京国際大学女子ソフトボール部総監督

宇津木 妙子

女子ソフトボールチームを、シドニーオリンピックで銀メダル、アテネオリンピックで銅メダルに導いた宇津木さんは、選手から鬼コーチとして恐れられ、かつ愛された監督でもありました。

決してメジャーとは言えず恵まれた環境には置かれていなかった女子ソフトボールという競技の中で、チームをどのように作り上げてきたのか。人を育てて組織を強くするとはどういうことか。自らの実体験に基づいた、力強い言葉をお届けします。



会長講演



座長：島田 信也 (JCHO熊本総合病院 院長)



士魂商才

JCHO 理事

内野 直樹

略歴

昭和25年	静岡県で出生
昭和51年	北里大学医学部卒業
平成5年	社会保険相模野病院 入職
平成24年	JCHO東京蒲田医療センターへ異動
平成26年	JCHO本部勤務

自立運営可能な病院のみが、良質の医療を安定して地域に提供出来るという考えは論を待たない。特に公的病院においては、民間病院と比較し優遇策に守られての運営となっていることから、交付金に依存しない安定経営が求められる。経営評価には、周辺人口、提供する医療、病床規模等様々の要件を考慮すべきであるが、自立困難な都市部公的病院に存在意義はないといえよう。

即効性のある経営改善策として、病床数削減（職員削減）、投資抑制（経費削減）という手法が取られることが多く、経営に貢献しないと判断される医療安全、教育、研修、地域貢献等の部門は縮小される傾向にある。演者はこの手法を否定しないが、安易な実施は病院の将来性、発展性を大きく損なうものと考えている。

病院の中長期的展望を踏まえた経営改善策については、具体的な数値目標を設定し、全ての部署で生産性の向上を図ることは必須条件であるが、持続可能とするためには職員の意識改革（最も重要で最も困難）が必要である。演者は、これを達成するために倫理観を基本とする取り組みが効果的と考えている。これはまさしく医療人の魂（士魂）と言うべき根幹部分と言える。外部から羈縻（きび）されることなく、独立不羈（どくりつふき）を維持するためには安定経営（商才）を求められるが、利益のみを追及することは品性の卑しさにつながる。同時に、自立不可能な病院が机上の理想論を語ることは口舌の徒の誇りを免れない。

地域と共に生きていくことは、われわれが譲れない原点であり、それを支えるのは医療人としての誇りである。「嘘をつかない医療の実践」という基本方針を継続し、患者と共に病と戦っていくことこそがわれわれの存在意義となり、誇りを持った職員の努力は必ずや病院の自立、経営改善につながることを確信している。

本講演においては、「地方の小さな病院で普通の職員が倫理観に支えられ病院を再生した」自験例につき概説する。



**会長企画
シンポジウム**



座長：内野 直樹 (JCHO理事)

PSP1 **第2期 JCHO 版
クラウド電子カルテ稼働の経験
～パイロット病院として～**

JCHO 宮崎江南病院
白尾 一定、松尾 剛志、松元 大典

2018年2月に第2期JCHOクラウドプロジェクトのパイロット病院の指定を受けた。2018年5月25日にJCHO本部にて総合評価入札の一環として技術評価会が開催され、導入ベンダーをソフトウェアサービス (SSI) に決定し、SSIの基本パッケージを用いたJCHO版パッケージを作成することになった。当院の電子カルテの基本方針として、急性期病棟、地域包括ケア病棟、回復期リハ病棟、介護老人保健施設、訪問看護、健診センターの情報が共有でき、地域包括システムに活用出来る電子カルテを目標とした。また、経営に直結するベッドコントロール体制や医療看護必要度の情報は、目標値を含めて表示出来るようにした。7月4日にSSIとの打ち合わせ会「チームクラウド」を発足させ、その後各ワーキンググループでの活動を開始した。3月6日から3日間電子カルテ見学会を行った。2019年2月より部門リハサル、3月13・20日に全体リハサルを実施し、4月1日に本稼働した(介護老人保健施設は、4ヶ月遅れの稼働である)。全体リハサルには後発病院も参加した。稼働後4週間が経過し、クラウド環境に伴う起動時間の遅延や操作時のフリーズ、シングルサインオンに伴う立ち上げ、透析部門システムとの連携不備、病院と附属施設間のID統合などいくつかの問題が浮かび上がった。ネットワーク整備、早期の部門システムの選択、クリニカルパスの作成、部門システムとの連携確認、運用指針の策定等の問題点が認められたので報告する。今後に稼働する病院の一助になれば幸いである。

PSP2 **JCHO 統一モデル導入の
経緯及びメリット等について**

JCHO 本部 総務部 IT推進課 課長
西川 英敏

電子カルテ、医事会計システム、検査システム等の医療情報システムは、現代の病院を運営していく上でなくてはならない存在となっている、しかしその一方では、それらのシステム導入に係る費用は数億円にもなり病院経営には大きな負担となっている。また、情報セキュリティ対策についても、厚生労働省所管のJCHOとしては、国の基準に従ったセキュリティ対策を行わなければならない、個別病院においてはその費用・労力ともに大きな負担となっている。

第1期JCHOクラウド・プロジェクトでは、データ管理専用構築されたデータセンターに国の基準に従ったセキュリティ対策を施した共有の仮想基盤を構築し、複数のJCHOグループ病院の電子カルテ、医事会計システムを稼働させることを基本とし、大規模災害発生時における診療データの確保を担保した。また、データセンターに構築したIT資源及び各種機器は24時間365日監視され、サーバのCPU・メモリの稼働率、ディスク容量、ネットワーク通信量等のシステムの可視化、IT資源キャパシティの管理、不具合・故障等の事前予知等を行うとともに、従来は病院個別に行っていたシステム運用管理等を集中・一元化することにより、業務効率の向上を図った。

第2期JCHOクラウド・プロジェクトは、第1期で構築したデータセンター基盤を拡張したIT資源上に、JCHOの中小規模の病院群で利用できるJCHO統一モデルを開発し、200床規模以下の病院群に展開を行うこととした。このJCHO統一モデルは、電子カルテ・オーダーリング、医事会計システムだけでなく、栄養・給食、輸血管理、手術等の部門システム機能も含んだパッケージシステムとして開発した。また、マスターについても多くのマスターを統一マスターとして整備し病院間をまたいだデータ分析を可能とすると共に、統一マスター情報の更新は、データセンターで一括管理を行うこととした。

学会発表時には、JCHO統一モデルの導入の経緯やメリットについて説明を行う。

座長：内野 直樹 (JCHO理事)

PSP3 クラウド型
電子カルテシステムの導入における
疑問解消のためのシンポジウム

株式会社ソフトウェア・サービス
新規導入部 サブマネージャー
金子 永基

『第2期JCHOクラウド型病院情報基幹システム調達』プロジェクトを通じて、JCHO統一パッケージの共同開発者である株式会社ソフトウェア・サービスを代表し、電子カルテシステムの導入における疑問や、導入時に発生する問題について、討論をいたします。

システム導入を行うベンダーとして、いかにして円滑かつ問題少なく、そして病院様の負荷を下げてシステム運用を開始できるかを前提に、疑問・課題の解決を目指します。解決のために、実際に導入を行った病院様からの“要望”“不満”に対して、シンポジウムにて当社としての回答を行います。